

「教育県大分」創造に向けた 地域別意見交換会 in 九重 開催概要

【開催日：令和2年10月28日（水）】

【訪問場所】九重ふるさと自然学校「さとぼる」（セブン・イレブン財団）
【訪問者】大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）

九重ふるさと自然学校は、“人と自然、自然環境と地域社会の共存・共栄を自然から学ぶ”ことを基本理念として、地域が育んだ豊かな自然や生態系及び歴史・文化等の保護・保全活動を行うとともに、生涯学習の場と、そこにおける心豊かな人を育てることを目的に活動しています。

九重町立飯田小学校の総合的な学習の時間における「米づくり」の手伝いや、ラムサール条約登録湿地であるタデ原湿原のキッズ・ガイドの取組への協力、野上小学校の水（命）の旅体験学習への協力等地元九重町の学校との関わりも大切にしています。



「九重ふるさと自然学校」の施設見学

【学校訪問①】九重町立南山田小学校
【訪問者】大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）
九重町教育委員会（小幡教育振興課長 他）

九重町立南山田小学校では、平成30年度からタブレット等ICTを活用した授業改善に取り組んでいます。

当日の授業参観では、多くの学級でICTを活用し、子どもたちが主体的に学びに向かえるよう様々な工夫を取り入れた授業が行われていました。

意見交換では、「脱受け身」を進める中で、子どもたちが主体となって学習意識・環境の改善に取り組む姿が紹介されました。また、授業でのICTの効果的な活用について意見交換が行われ、今後の学校の実践に繋がることが期待されます。



タブレットを使った社会科の授業
（ICTを使って自分の考えをまとめる様子）

【学校訪問②】九重町立ここのえ緑陽中学校
【訪問者】学校訪問①に同じ

九重町は、「人づくりは、まちづくり」の基本理念のもと、平成25年4月の中学校統廃合を契機にコミュニティ・スクールを導入し、学校が地域コミュニティの核となるような取組を行ってきました。

当日は、時松栄子校長からここのえ緑陽中学校でのコミュニティ・スクールの取組の成果や課題、今後の方向性について紹介がありました。

授業参観では「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」が位置づけられ、子どもたちが意欲的に学習に取り組む様子を見ることができました。また、学力向上に向けて、新大分スタンダードに基づく授業改善について意見交換が行われました。



「めあて」「課題」「まとめ」
「振り返り」を設定

- 【意見交換会テーマ】 (1) コミュニティ・スクールを活用した地域とともにつくる魅力ある学校
(2) ICTを活用した授業改善の取組
- 【出席者】 大分県教育委員会（工藤教育長、教育委員、理事、教育次長 他）
九重町教育委員会（濱田教育長、教育委員、教育振興課長、
社会教育課長 他）
九重町立小・中学校長（小学校3校、中学校1校）
大分県立玖珠美山高等学校長

意見交換会では、町全体の取組状況の説明の後、各小・中学校長から自校の現状・課題についての説明も交えながら2つのテーマについて意見交換を行い多数の取組を紹介いただきました。

(1)コミュニティ・スクールを活用した地域とともにつくる魅力ある学校

- ▶このえ学園がめざすコミュニティ・スクールの目的は、自己実現のための確かな資質を持ち、ふるさと九重町を担う人材の育成。
- ▶令和元年度から町内6小学校合同でこのえ小学校運営協議会を設置。令和4年度を目途に小・中をこのえ学園運営協議会に統合し、中学部と小学部を設置予定。
- ▶今後の取組の柱として、各地区の防災士や公民館と連携した防災教育の充実を図り、防災マップづくりや関係機関が連携した引渡訓練などに取り組む。

【主な意見】

- ▶学校・家庭・地域が熟議を重ね、子どもの現状からめざす子ども像を設定し、共通理解の上、取り組みを進めている。
- ▶学校の課題を解決するためのコミュニティ・スクールにとどまらず、地域の文化財の活用にも貢献してもらいたい。



現場の課題解決のために活発な意見交換を（工藤県教育長）

(2)ICTを活用した授業改善の取組

- ▶九重町では、平成27年度からICT機器を活用した授業改善の研究を飯田小学校で開始。
- ▶平成30年度には全小・中学校にタブレットを配布し、授業等で活用。
- ▶令和2年度には町内全教職員にタブレット配布。
- ▶児童・生徒の授業に対する興味・関心の高まりや視覚効果による理解促進のメリット。
- ▶今後は、ICT機器の更なる授業での効果的な活用法の研究とともに、個々の授業力向上が必要。

【主な意見】

- ▶ICT機器は、授業改善にとどまらず、働き方改革にも有効活用してもらいたい。
- ▶ネット安全教育やハードウェア・ソフトウェアの設定については、専門的な情報を持っている教育財務課に相談してもらいたい。
- ▶今後は、あらゆる情報を収集し、判断し、使いこなす力が求められる。教員も常に研鑽しなければならない。



地域の将来を担う子どもの育成はどうあるべきか（濱田町教育長）

【意見交換を終えて（工藤県教育長から）】

町内各学校でコミュニティ・スクールの取組が進んでいます。将来の九重町・地域をどうするかと言うことを念頭に置いて取り組みを進めてください。

ICT機器の授業等への導入はまさに草創期となっていますが、ICTはあくまでもツールに過ぎず、私たちのめざすところは児童・生徒の個々の状況に寄り添って、主体的・対話的で深い学びをどう実現するかということです。ICT機器の利用については、PDCAを回しながらよりよい活用の仕方を一緒に考えていく必要があります。大切なのは、ICTが教職員の新たな負担になってはならない、働き方改革の一助になることです。

皆さんから貴重なご意見を多数いただいたことで大変有意義な意見交換となったことに感謝申し上げます。